

二〇一七年七月二五日
発行



第 100 卷 第 4 号 史学・地理学・考古学

論 説

平安貴族社会と「貴種」……………金 玄 耿 (1)

十七世紀後半の日朝関係と対馬藩……………李 咳 鎮 (27)
——権現堂送使の新設交渉を中心に——

書 評

斯波照雄・玉木俊明編著
『北海・バルト海の商業世界』……………元 根 範 子 (64)

紹 介

ピーター・マクフィー著 (高橋暁生訳)
『ロバスピエール』……………山 中 聡 (71)

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

会 告

去る六月十五日に開催されました史学研究会理事会・評議員会におきまして左記の事項が可決、承認されましたのでご報告申し上げます。

記

- 一、平成二十八年度決算報告
- 一、平成二十九年度予算案

一、役員の変更

1、退任

常務理事 吉井秀夫(↓理事)

金澤周作(↓評議員)

理事 杉山正明、富谷至

中砂明德(↓常務理事)

評議員 大津留厚、出田和久

下垣仁志(↓常務理事)

編集委員 土口史記、塩野崎信也

岸本廣大、小野容照

庶務委員 石津裕之、石野達也

桑林賢治、王雅寧

後藤 陸、宮崎雄史郎

2、新任

常務理事 中砂明德(↑理事)

下垣仁志(↑評議員)

理事 吉井秀夫(↑常務理事)

評議員 本田毅彦

編集委員 金澤周作(↑常務理事)

松島隆真、山本 孟

庶務委員 杉本陽奈子、白木正俊

小塩 慶、清水大祐

中野洋志、西原和代

杉谷倫生

マルチン・タタルチュク

一、その他

『史林』の電子雑誌リポジトリへの掲載について(詳細については、別欄の「重要なお知らせ」をご参照ください)。

受贈誌

(二〇一七年一月三〇日) -
二〇一七年三月二日)

- 福島大学人間発達文化学類論集(福島大学人間発達文化学類) 二三
- 福島大学人間発達文化学類論集(福島大学人間発達文化学類) 二四
- 一橋研究(一橋大学大学院一橋研究編集委員会) 四一—一・二・三合併号(通巻一八五)
- 史迹と美術(史迹美術同致会) 八七一
- 東方學(東方學會) 一三三
- 法学家(中國人民大學) 二〇一六—六
- 国立歴史民俗博物館研究報告(国立歴史民俗博物館) 二〇三
- 史學研究(廣島史學研究会) 二九四
- 法學志林(法政大学法學志林協会) 一一四
- 一・二合併号
- 經濟研究(一橋大学經濟研究所) 六八一—
- 撰大人文学(撰南大学外国語学部) 二四
- 中山大学學報 社会科学版(中山大学學報編集部) 五六—四
- 中山大学學報 社会科学版(中山大学學報編集部) 五六—五
- 中山大学學報 社会科学版(中山大学學報編集部) 五六—六
- 中山大學學報 社会科学版(中山大學學報編集部) 五六—六
- 日本學刊 JAPANESE STUDIES(中国社科院日本研究所中華日本学会) 二〇一六・六
- 龍谷史壇(龍谷史学会) 一四三
- 立命館文學(立命館大学人文学会) 六四九
- 岐阜經濟大学論集(岐阜經濟大学学会) 〇—二
- 西洋史論叢(早稻田大学西洋史研究会) 三八
- 信濃(信濃史学会) 六九—二
- 史學雜誌(史學會(東京大学文学部内)) 一二六—一
- 日本史研究(日本史研究会) 六五四
- 立命館産業社会論集(立命館産業社会学会) 五二—三
- アジア研究所紀要(亜細亞大学アジア研究所) 四三
- 九州國際大学教養研究(九州國際大学教養学会) 二三一—一
- 九州國際大学教養研究(九州國際大学教養学会) 二三一—二
- 日本學研究(金沢工業大学日本學研究所) 一九
- 日本歴史(日本歴史学会) 八二六
- 社会經濟史学(社会經濟史学会) 八二—四
- 紀州經濟史文化史研究所紀要(和歌山大学紀州經濟史文化史研究所) 三七
- 美術研究(東京文化財研究所) 四二〇
- 經濟論叢(京都大学經濟学会) 一八九—四
- 經濟論叢(京都大学經濟学会) 一九〇—一
- 四
- 考古學報(中国社会科学考古学研究所) 二〇一七—一
- 斯道文庫論集(斯道文庫) 五一
- 史迹と美術(史迹美術同致会) 八七二
- 帝京史学(帝京大学文学部史学科) 三三一
- 經濟科学(名古屋大学大学院經濟学研究科) 六四—三
- 西洋史學報(広島大学西洋史学研究室) 四三
- 史窓(京都女子大学史学会) 七四
- 專修史学(專修大学歴史学会) 六一
- 九州國際大学 法学論集(九州國際大学法学会) 二二—一・二・三合併号
- 史泉(関西大学史学・地理学会) 一二五
- 鹿児島經濟論集(鹿児島國際大学經濟学部学会) 五七—二—四合併号
- 東洋學文獻類目(京都大学人文科学研究所)

附属漢学情報研究センター) 二〇一四年
度

法政史論(法政大学大学院日本史学会) 四

四

待兼山論叢 文化動態論篇(大阪大学大

院文学研究科) 五〇

アジア文化研究所研究年報(東洋大学アジ

ア文化研究所) 五一

皇學館大学研究開発推進センター紀要(皇

學館大学研究開発推進センター) 三

東洋文化(東京大学東洋文化研究所) 九七

信濃(信濃史学会) 六九—三

駿台史學(駿台史学会) 一五九

関西学院史学(関西学院大学史学会) 四四

山口大學文學會志(山口大学文学会) 六七

史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))

一二六—二

古代東ユーラシア研究センター年報(専修

大学社会知性開発研究センター) 三

國史學(国史学会) 二二—

日本常民文化紀要(成城大学大学院文学研

究科) 三二

編集後記

一〇〇巻四号をお届けします。今号は、

史料を博搜し新たな視角から平安貴族社会
を論じる金論説、日朝間で巧みに動くこ
うする対馬藩を朝鮮側史料も用いて活写する
李論説、数少ない北欧地域の論集に果敢に
取り組んだ元根書評、人物に焦点を当てた
研究書を取り上げた山中紹介の四本。

本数は多くなく、内容も日本史と西洋史
に偏っているようにも見えますが、論説の
二本は期せずして留学生によるものとなり、
世界から見た日本、日本から見た世界、と
いう意味では、視野の広いものとなったの
ではないでしょうか。ご味読ください。

さて、まったくの私事で恐縮ですが、今
号の編集もいよいよ佳境に入ろうかという
頃、祖父の訃報に接しました。私の人格形
成に最も影響を与えた人物であり、深く悲
しい出来事だったのですが、一方でどこか
客観的な自分に驚きました。というの、
葬儀(神式)において「神主(衣冠。墨染、
巻纏)着座後、自懐中執出祝詞、取副笏
……と観察し、挙げ句は「読上祝詞之間、
兩段(無再拜)。異昨日儀(通夜)如何。
若誤歟。可怪々々」などと所作の違いも氣
になり出す始末。何とも冷徹な歴史家を見
てしまったようで、恐ろしい気持ちになり

ました。

考えてみれば、親や兄弟の火葬の場面、
追善仏事などを克明に記した貴族たちは、
どのような気持ちで、そうした場にいたの
だろうか。そんな、これまで考えもしなか
った事が気になった瞬間でもありました。
最後の最後まで私に学ぶ機会をくれた祖
父に深謝するとともに、史資料を愛してや
まない皆様から、深い洞察に基づくご論考
が沢山投稿されてきますことを、心待ちに
しております。(黒羽亮太)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenkuyukai.jp/index.html>

二〇一七年七月二五日印刷
二〇一七年七月三二日発行

史 林 第一〇〇巻第四号(通算第五二四号)
定価 一、二〇〇円

京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内

電 話 (〇七五) 七五三—二七八七

発行人 史 学 研 究 会

振替京都〇一〇七〇二一五五番

理事長 井 谷 綱 造

印刷所 中村印刷株式会社
京都市南区上鳥羽薬田二九

史学研究会役員(二〇一七年六月)

理事
理事
*(印常務)

監事
評議員

編集委員

庶務委員

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|
| 中野洋志 | 小塩秀慶 | 吉井秀夫 | 白井良生 | 網島正俊 | 和木光弘 | 宮田哲弘 | 菱田耕太郎 | 中野照彦 | 高橋照功 | 小林隆司 | 岡本隆典 | 青山宏夫 | 岡村秀典 | 吉川真司 | 南出真明 | *杉本淑彦 | 合田昌史 | 岩崎奈緒子 | 浅原達郎 | 井谷鋼造 | |
| 西山和代 | 小山真帆 | 吉川真司 | 内記陽奈子 | 杉本鋼造 | 井邊秀一朗 | 桃木直樹 | 平瀬宏博 | 仁木泰作 | 高山泰生 | 米田豊 | 木田宏亨 | 上垣村道雅 | 綾澄亨 | 山本雅 | 吉本雄志 | 元木博 | 永原陽志 | 高島泰雄 | 小島志雄 | 上川義孝 | 石川義孝 |
| マルチン・タタルチュク | 谷雪妮 | マイケル・ジャメンツ | 永原陽子 | 杉本淑彦 | 金澤周作 | 渡邊健伸 | 矢野由喜夫 | 藤津由喜夫 | 根川昌稜 | 谷川昌信 | 佐藤昌隆 | 北村隆一 | 宇野隆一 | 飯塚隆一 | 矢木良毅 | *高山航平 | 小嶋憲隆 | 江田治浩 | 石川禎浩 | | |
| | 清水大祐 | 松島隆真 | 高嶋亮航 | 黒羽亮太 | 山本亜希 | 林田毅彦 | 塚本和生 | 佐野明 | 久保代之 | 太田敏 | 池内静一 | 久保敏 | 池内敏 | 横田冬彦 | 水野一 | 田中一 | 小和 | 小登 | 小登 | 小登 | 小登 |
| | 杉谷倫生 | 山本徹孟 | 谷家泰作 | 米家誠一郎 | 吉澤誠一郎 | 美川圭 | 早島大祐 | 席尾達 | 角谷常 | 黒田晃 | 大野晃 | 井上卓嗣 | 井上卓嗣 | 吉井秀夫 | 辻高志 | *下垣正志 | *小野仁志 | 岩井茂透 | | | |

〈重要なお知らせ〉

『史林』の電子雑誌リポジトリへの掲載について

二〇一六年十一月二日に開催された理事会・評議員会において、『史林』のバックナンバーを電子雑誌リポジトリに掲載し、ウェブ上で閲覧できるようにしてはどうかという提案がありました。掲載先としては、京都大学学術情報リポジトリKURENAIが候補に挙げられました。

この提案を受けて、常務理事会が原案を作成し、同案を二〇一七年六月十五日に開催された理事会・評議員会にて審議いたしました。審議の結果、理事会・評議員会は、常務理事会の原案を一部修正の上、左記の方針を決定いたしました。

・電子雑誌リポジトリ（以下、リポジトリ）に『史林』バックナンバーを掲載する。どのリポジトリに掲載するかについては、常務理事会が改めて検討し、二〇一七年十一月二日の理事会・評議員会・総会に報告する。

・発行後四年間は、リポジトリに掲載しない。

・これまでに刊行された『史林』に掲載された記事（論考、研究ノート、書評、紹介、その他）の著者が、リポジトリへの掲載を拒否する意思を示した場合、著者の意思を尊重し、当該記事の掲載は見合わせる。掲載拒否については、原則として、一定期日（二〇一八年末頃を予定）までに史学研究会事務局に書面で通知するものとする。

・リポジトリ掲載への可否は、二〇一七年十一月二日開催の理事・評議員会、総会にて決定する。

・右記総会で承認された場合、一年間（六号分）、『史林』誌上にリポジトリ掲載を告知するとともに、リポジトリへの掲載拒否の意向を史学研究会事務局に通知するための様式を掲載する。

右記のとおり、二〇一七年十一月二日に開催する理事会・評議員会および総会にて、リポジトリ問題についての最終決定を行うことを予定しています。『史林』のあり方にかかわる重要な問題ですので、理事・評議員・一般会員各位におかれましては、十一月二日の理事会・評議員会・総会に奮ってご出席くださいますよう、お願い申し上げます。

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. C No. 4

July 2017

CONTENTS

Articles :

- KIM Hyunkyung, The Aristocracy in the Heian Period
and *Kishu* (Noble Birth) (1)
- LEE Haejin, Japan-Joseon Relations in the Latter Half of the 17th Century
and the Tsushima Domain, Focusing on the Negotiations for the
Establishment of the Gongendō Annual Ship (27)

Book review :

- SHIBA Teruo and TAMAKI Toshiaki (eds.), The History of the Commerce
in the North and Baltic Seas in Medieval and Early Modern Times
(MOTONE Noriko) (64)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 1,200円

ISSN 0386-9369